



『躰』

校長 佐藤 紀明

私事ですが、先月、我が家に黒色の豆柴犬がやってきました。家族から何も知らされていなく、帰宅すると元気な子犬がリビングを走り回っているの、とても驚きました。

4年前に、それまで飼っていた愛犬が亡くなり、深い悲しみで、また、犬を飼いたいという気持ちにはなれませんでした。風向きが変わったのは、親戚の影響が大きいかと思います。これまで、犬を飼っていなかった親戚達が、一斉に犬を飼い始めたからです。

普通は、犬が飼育できる状態にしてから、犬を購入するのですが、私へのサプライズ？でもあったようなので、後日ペットショップにいろいろな物を買に行きました。その時、店員から、「これからトイレなど、いろいろと躰をされると思いますが、失敗しても絶対に叱らずに黙って処理して、成功した時に思いやり褒めてあげてください。」と言われました。トイレで悪戦苦闘する毎日ですが、豆柴君も『成功体験』から、褒めてもらいたい、体をさすってもらいたいと、50%の確率でトイレも成功するようになりました。また、食事の時にも「お座り」「待て」もできるようにになりました。子犬であっても、『成功体験』は大切であり、『褒めてもらいたい』という気持ちは人も犬と同じであるのだと実感する毎日です。

子どもの『躰』は、私達の大切な役割です。とはいえ、「良いこと」「悪いこと」の判断や、従うべきルールの範囲、子どもへの教育方針などは、人によって千差万別だと思えます。当然、経験や育ってきた環境、価値観などが反映されるので、『躰』については、様々な考え方があります。大切なのは溢れる情報に振り回されないことだと思います。情報に振り回され、言うことがコロコロ変わっては子どもも混乱して、何が正しいのか判断がつかなくなり、情報に振り回されないうためには、躰の視点と教育方針を持つことが大切です。

子どもの躰は、神経質になつてしまいがちなものです。子どもに社会性を身に付けさせ、学校や社会で『苦勞する』ことがないようにしなければ、と思うあまり、厳しくなつてしまうこともあるでしょう。とはいえ、厳しすぎる躰は、『百害あつて一利なし』です。

厳しすぎる躰をされた子どもは、
○萎縮して、好奇心を無くしてしまう
○顔色を伺い、自己決定力が育たなくなる
○自己肯定感が持てず、無気力になる
○嘘をついたり、ごまかしたりする
感情にまかせて怒つたり、いつまでも叱り続けると、子どもは「人格を否定された」と感じて、『自尊心』を失つてしまうものです。ですから、厳しすぎる躰をするのではなく、この躰け方は、子どもを尊重したものになっているだろうか、と客観的に振り返りながら、チェックして進めていくことも大切です。

子どもの躰には、大前提として子どもとの信頼関係が成り立っていることが大切です。子どもが『自分を大切に思い、愛情をかけてくれる』、『自分の存在を受け入れてくれる』、『安心感』をもっていないければ、私達の言うことを、素直に受け止めることはできないと思います。ですから大切なことは子どもの『言動への共感』を示すことです。

子どもは、自分の気持ちを理解しようとしてくれている、感情に寄り添ってくれていると感じられなければ、聞く耳を持たずに反発したり、心を閉ざしてしまつたりするものです。信頼関係の第一歩は、相手を受け入れること。そのためにも、共感を示すことが大切です。

また、子どもは直ぐにできるようなものではないとゆつたり構えることも大切です。子どもは、一度や二度の躰で、直ぐにできるようなものではありません。私達はい、「この間も言ったでしょ！」
「何度言つたらわかるの！」と口をついてしまふようになることもあるとは思いますが、
『いつも自分を温かく見守ってくれている』と感じられるよう、ゆつたり構え、根気強く繰り返していくべきものだと思います。直ぐにできるようにならないからこそ、身につけたときには確かなものとなっているはず。危険なこと、大切な約束を守らなかつた時など、厳しく叱る必要がある場面もあります。でも、子どもは失敗を繰り返しながら学ぶので、優しい言葉かけで温かく見守りたいです。

今年度小・中学校間に異動されたお2人の先生 方に寄稿頂きました。

学内の異動の中で学ぶこと

小学校教諭 和田 好江

随分と長い間、聖ステパノ学園にお世話になっております。元々小学校での担任業務からスタートし、産育休後から体育専科になり、中学校と小学校の異動を数年毎に繰り返すことになりました。その時毎に、「和田は此処で働きなさい」という命を受けて、自分にできることを模索しながら勤務させていただいてきました。

さて、今年度は中学校から小学校に異動の年でしたが、体育で小学生の授業を続けてきた身としては、生活の様子を見ながらの授業や行事の取り組みはやはり良い面が多かったし、何より子ども達は、授業者である私に対して安心して接することができたと思います。中学校は専科制ですので、生徒自身はそれぞれの場でそれぞれの担当の先生方とコミュニケーションをとり生活をしていきます。教員側から見ると生徒一人に対して皆で指導しているからこそ、生徒の自立した行動や社会性が身についているように思います。行事や生徒会活動の様子から、それぞれに求められる役割があり、それが教師からよく見え、生徒間でも認め合える。



そういった場面が中学校の良さだと思えます。まだまだ教師主導の面がありますが、各所でより自主性を育て、生徒による自治的運営ができるようになること、児童から見て『憧れる中学生』になれると思

ます。

それゆえ、私が考える小学校の生活面で必要なことが、これまでの経験から明白になりました。挨拶、言葉遣い、準備、身だしなみを整える、身支度、食事や掃除全般等、「自分のことは自分でやる。」を基本に、「コミュニケーションをとり、協力する。」「自分の意見を言い、相手の話を聞く。」：等、みんな在生活する中であたりまえを適齢度できるように我慢強く見守りながら関わっています。

今後、児童が憧れる中学生を理想とし、小学生との生活の中で丁寧に接していきたいと思えます。

引き続き小中一貫の視点で、自分にできることを模索していきたいと思えます。



久しぶりの中学校

中学校教諭 根田 栄子

今年度、久しぶりに中学校に所属させていただきましたこととなりました。小さな頃に副担任として一緒に生活していた子ども達や、6年生まで音楽の授業とともに楽しんで子ども達の成長した姿を身近に見ることが嬉しい毎日です。



いろいろな個性を持ち、この聖ステパノ学園に集う子ども達。小学生の頃には、学校という集団行動に適応させるべく『このままではいけない』『どうし

てあげたらこの子のためにより良いのか：』と、毎日のように悩み、試行錯誤を繰り返してきました。どんなに言っても、手をかけても全く成長していないように感じてしまう日もあったかもしれません。しかし、久しぶりに近くで接してみると、子ども達は身も心も確実に大きく素晴らしく立派に成長していたのです！

根が真面目なステパノっ子達のこと、悩みながらも、本人たちが努力を続けたこともあるでしょう。

一年また一年と、担任の先生方（私のような専科教員含む）が心を込めて全力で向き合い、指導なされた結果でもあるでしょう。保護者の方々の、年中無休24時間対応のお世話やサポートもあつたでしょう。しかし、私の心には次の聖句が浮かんで来たのです。

『わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。コリントの信徒への手紙一 第3章6節』

人を成長させるのは、まさに神の業です。私達はそれぞれの立場でなすべき事を行い、後は神様にお任せすれば、神様は必ず、私達全ての人を成長させてくださるのだと思います。

そして私は、今はまだ大変な小学生達も、まだまだ伸びしろの多い中学生達も、数年後には：と思いつつ、今日も教員の立場で試行錯誤を続けようと思えます！



秋の遠足・修学旅行に行ってきました。

先生あのね。えんそくがたのしかったです。しろい
るかとレッサーパンダがかわいいです。ひろばでたべ
たごはんがおいしかったです。五ねんせいのおにいさ
んがとてもやさしくてうれしかったです。またいっし
よにいきたいです。

小1 S・N

遠足で、八景島シーパラダイスへ行きました。ぼく
は、3班で西村先生が担当でした。まずふれあいラグ
ーンでお魚を見ました。まるで、海の中にいるよう
でもきれいでした。それからかわいい亀の甲羅と足
をさわりました。甲羅はカチカチでかたかったです。
そしてアクアミュージアムでペンギンやクラゲを見ま
した。とってもかわいかったです。最後にイルカのシ
ョーを見ました。イルカが凄く高くジャンプをして
くるくる回っていました。
イルカは回ったりジャンプしたり、ど
うやって学んでいるのだろうと不思議に
思いました。すごく楽しかったです。
帰りにバスの中で名探偵コナンを見ました。すごく
良い一日でした。

小4 E・Y



10月25日は1〜5年生の秋の遠足でした。6年生が
修学旅行でいなかったので緊張しました。バスの中
は、レクをやって楽しかったです。
着くとまずは、ふれあいラグーンに行きました。ほ
んとうに亀がふれあいゾーンの中でまるで一人であ
かのようにうろうろしていました。ドルフィンファン
タジーではイルカや小さい魚などがいました。とても
静かで落ち着きました。アクアミュージアムはたくさ
んの海の生物がいました。まるで海の中にあるよう
な気分でした。

小5 Y・H

修学旅行に行きました。まずさいしよに興福寺に行
きました。あしゆら像は多くの身長よりも高いと知っ
てびっくりしました。東大寺の大仏の鼻の穴と同じ大
きさの穴に入りましたが、いきなりかぜになりそうで
す。伏見いなりの鳥居は数えただけでも470本あり
ました。しょうじん料理のかやくごはんが
すごくおいしかったです。二条城の床が
きゅきゅつとなったところがおもしろかっ
たです。すごく楽しい修学旅行だったと思
います。また行きたいです。

小6 I・M



今日は秋の遠足でした。朝早く起きてお弁当を作
って学校に行きました。電車は混んでいて、行きは座れ
たけど、座りつかれました。品川まで乗ってアクアパ
ークに行きました。いろんな生き物がいてすごかっ
たです。特にすごかったのがイルカショーです。
「下見に行ったときよりすごかった。」と咲間先生が言
っていました。ほかにもコツメカワウソがかわい
かったです。色々な人が見ていたからか活発に動いていま
した。お弁当もおやつもおいしかったです。
次に浜松町の劇団四季を見ました。ゴー
スト&レディでした。とっても感動しまし
た。ゴーストが壁をすり抜けるシーンがす
ごかったです。カラクリが知りたいです。
時にはとっても面白くて、時にはとっても悲しかった
です。また他の劇も見たいです。とっても勉強になり
ました。

中1 O・W



今日は秋の遠足でした。初めて班長になってすごく
不安だったけど、他の中2の人が助けてくれました。
印象に残ったのはアクアパークで、サンゴとサンゴ
礁の役割の話聞きました。サンゴ礁がもしなかった

ら魚がいなくなると人間は魚を食べることができなく
なることを知りました。

劇団四季では、劇が始まる前にすごく大きな音でス
テージの電気が消えてすごくびっくりしました。歌と
演技に迫力があって、これにもびっくりしました。自
分たちのクリスマス祝いで大道具や役者、照明、音響、
メイクがあるので、色々参考になることがありまし
た。

中2 G・T

修学旅行がとうとう始まりました!!朝からワクワ
クが止まらなくて早起きしてしまいました。

みんなと一緒に新幹線に乗って絵しりとりをしたり、
話したりしました。
お昼ご飯のおにぎりが美味すぎて
感動しました。
広島平和記念公園を訪れました。戦争の過去と命を
奪われた人々の想いに触れることができ、今まで遠い
存在だと感じていた「戦争」が身近に感じられました。
もう二日目です。時間がとけていきます。ずっと修
学旅行の中で生きたいです。
フェリーに乗りました!!風が気持ちよくて、景色も
きれいで最高でした。



3

宮島の鹿がかわいすぎて写真がほぼ鹿しかいません。
お土産をたくさん買えてほくほくです。
もう眠すぎて、Mちゃんの話聞きながら「うん」
しか返せなくなり、そのまま意識がとびました。本当
はオールするつもりでした。これが唯一の後悔です...
ついに最終日になってしまいました。とりあえず新
幹線で寝て、姫路城の階段が急すぎて倒れそうになり
ました。最後の昼食はあったかいしょうがのおでんと
たこ飯でした。とにかくおいしかったです。もう最高
という言葉がふさわしい三日間でした!!中3 M・H



子どもたちの祝会・クリスマス祝会が行われました。

先生あのね。きょう、げきですごくみんなちようして、どきどきしました。きやくせきのまわりをいっしゅうするときがきんちようしました。でもせいこうしてうれしかったです。

小1 I・N

十四日にしゆく会がありました。ぼくは、リスの役をやりました。自分では声が小さいと思っていました。ビデオで見たらおきかかったのでよかったです。

来年はもっと大きい声を出せたらいいなって思いました。小2 N・T

クリスマスのできでアオバトやく

をしました。たのしかったです。パタパタとできました。おとうさんにじょうずだったとほめられました。

小3 A・S

土曜日にクリスマス祝会がありました。祝会の劇で森の住人の役をしました。森の住人のセリフが一番最初だったのでとても緊張しました。うまく言えてホッとしました。劇が大成功してみんなが協力した結果がでてよかったです。

小5 T・H

14日はクリスマス祝会でした。今年、小学生はオリジナル劇をしました。私はこだま(ナレーター)役でした。私のセリフは2つで物語のちゆうばんと大とりでした。練習の時はセリフを言いまちがえたり早口でいってしまうなど色々ありましたが、本番ではしっかり言えたと思います。小学校最後なので良い思い出をつけてとてもうれしです。

小6 S・R

小学校一年生のときに僕は初めて聖劇の舞台に立った。羊の耳をつけ、きよとんと立っている写真が今も残っている。



あれから八年。僕はヨセフになる。小さな力だけれど、イエス様の尊さを伝えたい。このメンバーでしかない舞台を創ろう。

ただ、なかなか上手くいかない日々が続いた。台詞を言えるか、光を照らすタイミングを間違えないか。それぞれに不安なことがあって、そわそわとした雰囲気 backstage に漂う。こんな気持ちでやってちゃだめなんだ。

「今はなんだか劇が進んでるだけ。一つになってやろうよ。」



「今思った。当時の人々の苦悩、喜びを深く考えよう。そして、失敗を指摘するのではなく、良かったところを言い合える雰囲気をつくらう。」

僕たちは日が暮れるまで毎日練習に励んだ。先生たちから賢明なアドバイスが来る。上手く表現できなくて悔しい日々が続く。でも楽しい。友達や先生と色々話しながら創っていると、もう全部知っている人たちのはずなのに、新たな魅力が出てきて胸がいっぱいだつた。

「キャンプで夜を一緒に過ごし、運動会もみんなですり越えた。聖劇は毎年やっているけれど、この50人と先生でしかできない舞台にしよう。」そう皆んなに伝えた。クオリティよりも、一人ひとりの魅力や特技が光る作品にする。

劇は、透き通るようで力強いSの台詞で幕を開けた。ホールが一瞬にして世界を変える。会場の雰囲気を持っていく感じが彼の凄さである。一つ大きく息を吸って聖歌を歌った。

場面はイエスの系図へ。H、T、Oが一人ひとり丁寧に系図を読み上げていく。彼らは系図を暗記していたのだ。舞台裏にいる役者・スタッフは祈るように耳

をそば立てて聞いている。三人のナレーターは、この緊張の舞台で、一人たりとも間違えることなく系図を読み切った。圧巻だ。客席から拍手が起こる。

「表ざたにはしたくない。悲しいが、そっと婚約を取り消すことにしよう。」

一体どんな意味なのだろう。咲間先生が教えてくれた。当時は未婚の女性が妊娠すると石打ちの刑になってしまう。これまで真つすぐ神に向き合ってきたヨセフだが、愛するマリアのために婚約を取り消そうと思つたのだ。ヨセフは自分のことを後回しにし、隣人を愛して全ての人の僕となる人物であつたと思う。

姿の見えない舞台裏でずっと一緒に舞台を創つてきたスタッフ達が勇気を与えてくれて、ヨセフが出来上がった。

「あらののはてに」が流れ、役者・スタッフが舞台上そろそろ。咲間先生が聖書で教えてくれたこと、毎朝捧げた礼拝、そしてここまでの練習。幕が閉じていく。終わらないでほしいな。

「ありがとう。」

僕らの演劇がきつと神様に届いたと思う。

中3 H・U



【編集後記】

今号は二学期の行事を中心に掲載させていただきました。学校というものにとって行事は必要不可欠です。勉強の苦手な子も普段の生活ではなかなか強みの発揮できない子も、もちろん優等生も全員が一丸となつて行事の成功を目指します。そこには学校でしか経験のできない成長も挫折もあります。行事を通して自分の新たな面と出会う。それこそが「行事で育つ」の本質なのではないでしょうか。(り)

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

ステパノ大より編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp

二〇二五年一月七日(火) 発行第290号